

# 住

## 名古屋瓦商工組合

# 屋根に関することを 総合的に手がける

### 瓦の運送業を兼ねた瓦問屋から出発

寺院と同様に、一般の家の屋根も瓦で葺くようになったのは江戸時代からです。それまでは、農民や庶民の家は藁葺きか板葺きが普通でしたが、江戸や名古屋などでしばしば火災が起き、防火のために瓦葺きが奨励されるようになりました。明治になって瓦の需要が増えますが、重量があるため、産地からの運搬には舟が使われ、瓦問屋は瓦の運送も行いました。明治33年（1900）に名古屋瓦商組合が結成されます。さらに屋根瓦葺き職人の手配も行い、瓦問屋が瓦葺き工事を直接請け負うようになりました。

### 粘土瓦から金属瓦へ

現在の組合員は11社ですが、平成の初めころまでは30社以上ありました。

最近では、瓦屋根の家が少なくなってきましたが、その背景の一つが平成7年（1995）の阪神・淡路大震災です。大震災以降、大きな災害が起きるたびに屋根瓦が大きく崩れ落ちた映像がニュースなどで



美しい曲線を描く、お寺の瓦屋根



ドローンを使って屋根を診断

放映され、瓦屋根を敬遠する人が増えてきました。その一方で、軽量なカラーベストや金属製の瓦の需要が大きく伸びています。軽くて屋根葺き作業も楽にはなりましたが、伝統の技法を伝えることが難しくなりつつあります。

愛知県にはもう一つ愛知県屋根工事業組合があります。この組合は令和3年（2021）6月に瓦問屋出身の工事店の集まりである愛知県屋根工事連盟と屋根工事の職人の集まりである愛知県屋根葺き技工組合が合併してつくられ、現在130の法人・個人が加入し名古屋瓦商工組合の組合員も加入しています。

最近ではドローンを使い、短時間で高所作業や点検を行うことが可能となっています。また、瓦や金属瓦を使った屋根葺きだけでなく、本来であれば大工や左官の領域である屋根の下地作りや漆喰工事、時には雨樋の施工といった工事まで引き受けることも多くなっています。さらには屋根工事の時に足場を組むため、外壁塗装まで頼まれることもあり、いわば新築からリフォームまで、家に関することなら総合的に行なっています。